

予報期間 5月23日から5月29日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 25日から26日にかけて、低気圧が日本付近から日本の東へ発達しながら北東に進み、前線が本州南岸から沖縄付近を南下する。
- 25日から27日にかけて、高気圧が東シナ海から日本海を通して日本の東へ移動し、その後も日本海に気圧の尾根が残る。
- 26日から28日にかけて、気圧の谷が東日本の南から日本の東へ進む。
- 29日は、前線が華中付近から東シナ海へのびる。

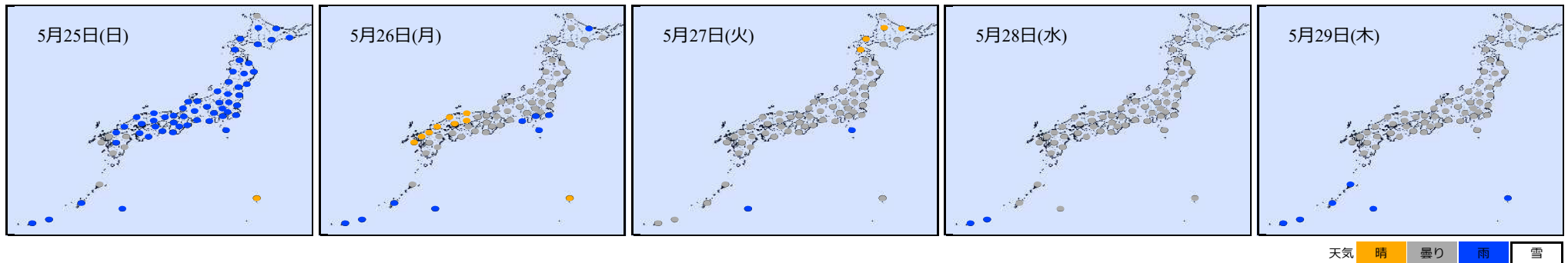
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 25日にかけて、日本付近を北東進する低気圧や前線の影響で、東日本から西日本で大雨となる所があり、低気圧の発達や前線の活動の程度等によっては警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

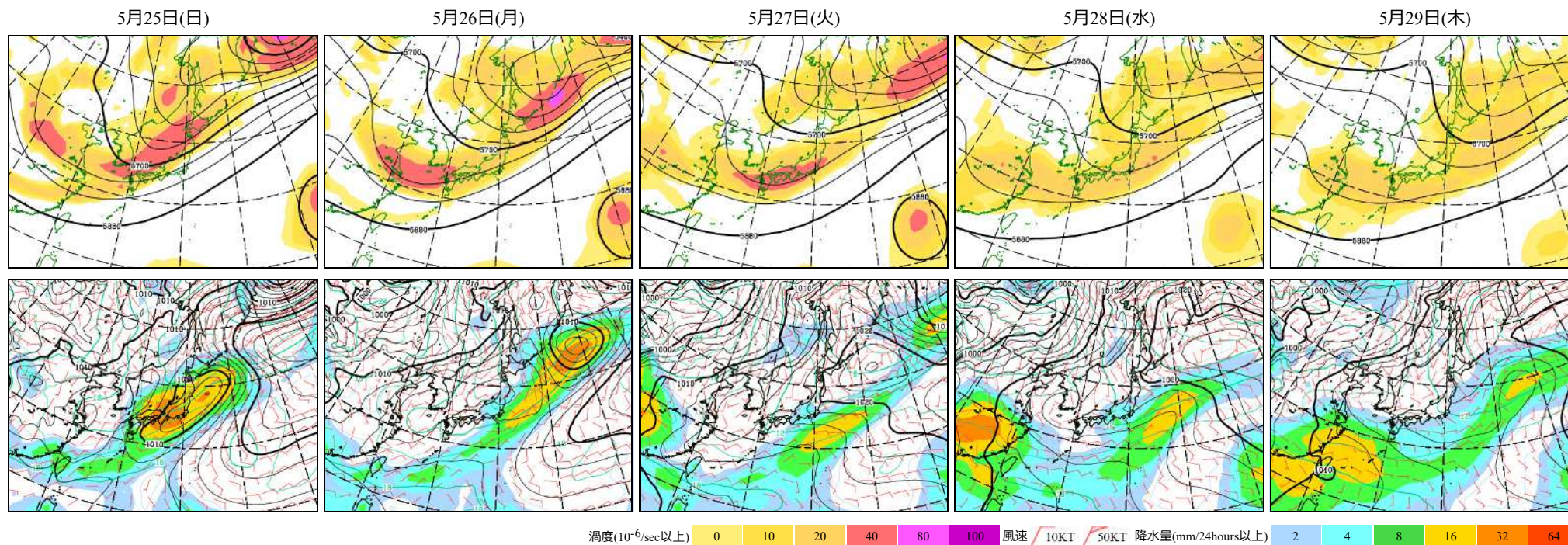
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

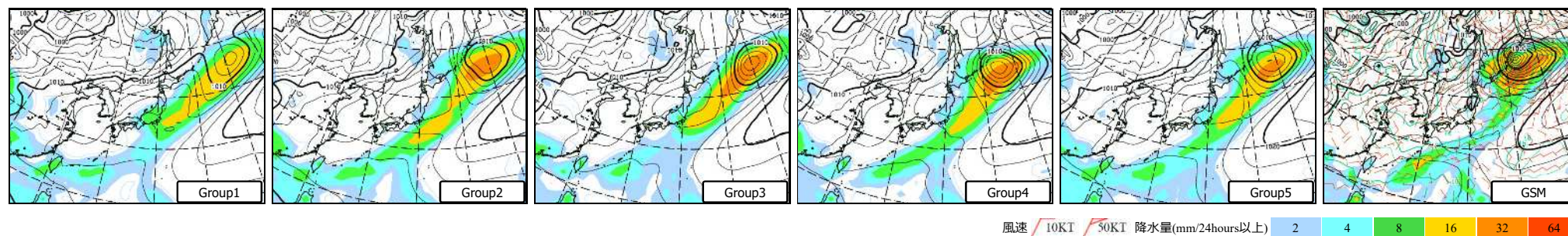


- 北日本は、曇りや雨の降る日が多いが、27日は晴れる所がある。
- 東日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 西日本は、25日は雨の降る所が多いが、その後は曇りまたは晴れとなる。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆5月26日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、25日は低気圧が日本付近を発達しながら北東進する予想となった。この影響で北日本の25日は降水確率ガイダンスの値が大きくなった。
- スプレッドは期間の終わりは大きく、期間の後半から5700mの特定高度線のばらつきが大きくなる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。